楽しいワクワクする生活しませんか？　42

うるまカイロでは毎日の生活をハッピーワクワク　をモットーとしています。
私、松野は過去のストレスから体調不良をおこし、ストレスとはなんだろう？と興味を持ち今ではメンタル心理カウンセラーの資格まで取得しましたが、私と同じようにストレスを抱えて、そのストレスから痛みや病気に派生して苦しんでいる人も多いように思いえます。
きじポ～新聞では、日頃のストレスや心の健康を意識できるように、そしてみなさんと一緒に高齢になっても元気に動けるハピワク健康長寿な生活ができればいいな～と思い書きます。

「健康第一！、病は気（意識、イメージ、元気）から！」

さて今回は！最近、月9のドラマで放送されている「ミステリと言う勿れ」より
主人公は、菅田将暉演じる久能整（ととのう）。
悩みは天然パーマ、友だちも彼女もいない、カレー好きで東英大の教育学部に通う2年性です。
そんな整君は、幼少期に父親からの虐待で母親が自殺をし、自身も同じく虐待を受けて育っています。
そのような家庭で育ったために、まわりの優しい大人や先生に助けられ、自身もそうなりたいと思って先生を目指して、大学に通っていますが、色々な事件に巻き込まれます。
また整君は、記憶力、観察力、推察力に優れていて核心をついた話をよくします。
ここではドラマ本編の話ではなくて、その紹介したいと思います。
※整君の主観で、科学的ではない話もあります。

整君の気になる話「捉え方で悪いことも良いことに変わる。」
整君は、殺人事件の容疑者として警察に疑われ、尋問を受けることになります。
以下は、そこでの会話で、警察官同士の会話から始まります。
警察官A「来年には父親になるんです。」
警察官B「男か？女か？」、「女の子はダメだぞ」、「あんなにかわいがってやったのに、お父さん臭いとか、うざいとか、生意気で腹立つ！ほんと育て方を間違ったよ。」
整君「娘さんをかわいがって育てた？」、「なのにお父さん臭いとか汚いとか、洗濯物を一緒に洗うなとか言い出した？」、「腹立たしいですか？」、「でもそれ娘さんのせいじゃないですから」、「生き物としての反応ですから」、「生き物の多くは父親と子供が一緒に暮さない、そしたら子供が大人になって父親と知らずに会ったりする」、「そこで生まれる子供は遺伝子的に弱いわけです」、「だから遺伝子レベルで警戒警報を出している」、「娘さんの中でこの人は相手にしちゃダメだよって、その作用なんですよ」、「娘さんが生意気とかではないんです」、「育て方を間違ったとおっしゃった、でも逆です、正しく育っている」、「これがいくつになっても父親にべったりでお父さんのお嫁さんになりたいとか、母親べったりの息子だったら、そっちのほうが心配なんです」、「これを寂しいと思う気持ちはちゃんとお子さんと向き合ってきたんだと思います」、「育て方は間違っていない、娘さんはちゃんと大人になろうとしている」、「いい話です」。

うちの娘はまだ2歳でママにべったり。
寝起きに抱っこしようとするものなら泣かれてしまいます。
これから娘が成長するにつれて否定されることが増えそうですが、
この話を知っていると否定されたとしても私（松野）が突っぱねたり、
ふてくされずに済みそうです。
関係ない話ですが、意味もなく、「ば～か」と言われると、プチムカつき！

保育園で覚えてきたんでしょうが、言葉の意味を理解していないとはいえ、ちょっとむかつく！